

経営比較分析表

福岡県 嘉麻市

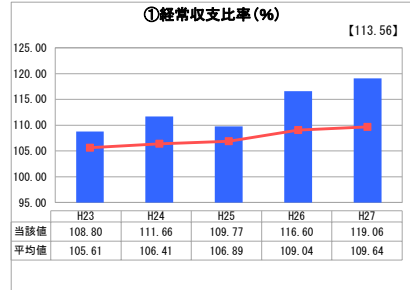
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A5
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	68.72	90.10	3,002

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
40,555	135.11	300.16
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
36,235	43.84	826.53

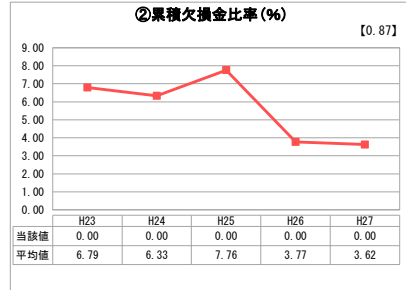
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

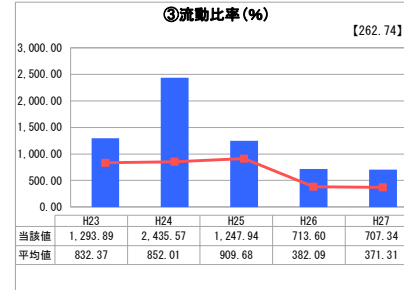
1. 経営の健全性・効率性



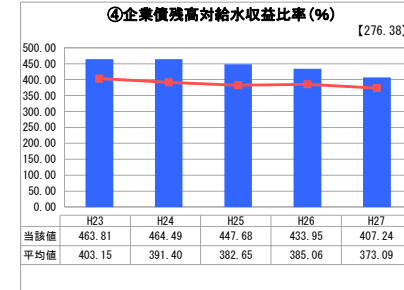
「経常損益」



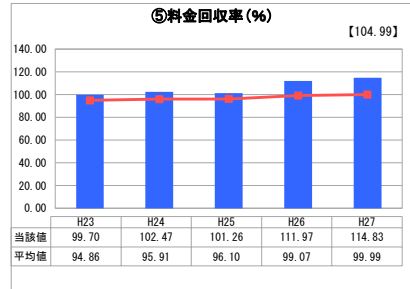
「累積欠損」



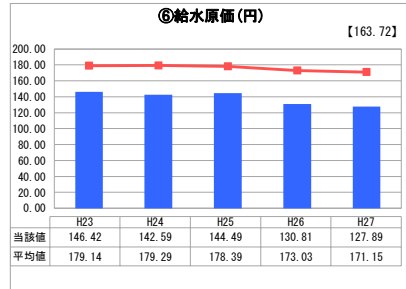
「支払能力」



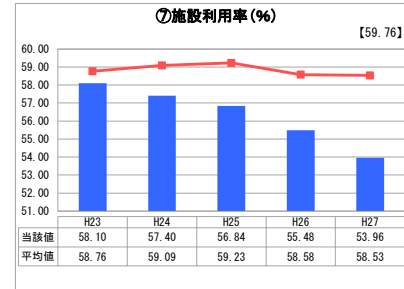
「債務残高」



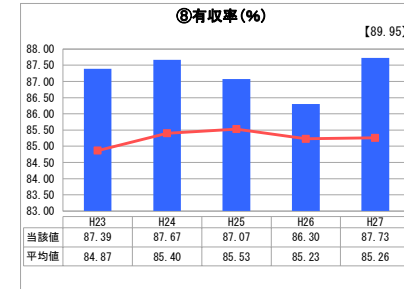
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

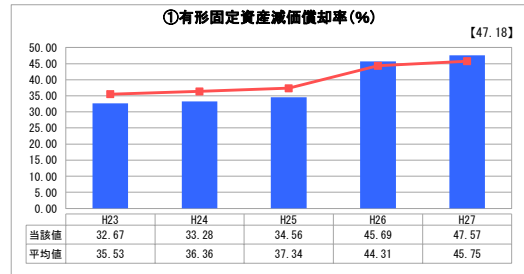


「施設の効率性」

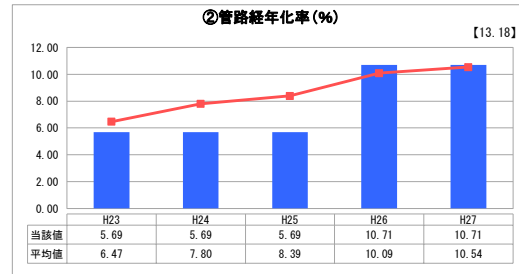


「供給した配水量の効率性」

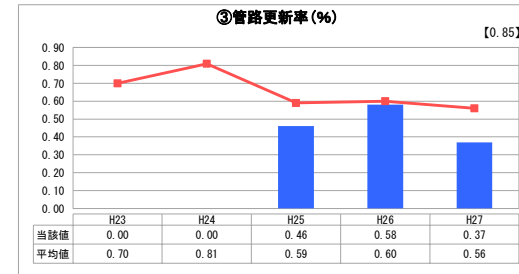
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

料金改定を行った平成21年度以降、黒字を維持できており、料金回収率及び給水原価から料金水準も適切であると考えられる。
流動比率により必要な資金も確保できていることから、健全な経営を維持できているものと考えられる。
施設利用率については、施設の事故等による断水を回避するため、一定の設備能力は必要と考えられるが、配水量の推移を見ながら整理・縮小も考えなければならない。

2. 老朽化の状況について

水道施設の老朽化の状況は、全国の平均値及び類似団体の平均値とほぼ等しい状況である。
本市の水道施設は、昭和30年、40年代に建設された施設が多く、漏水修理の頻度も年々増加している。
有収率は全国平均より2%以上も低く、早急に管路の更新を行っていく必要がある。

全体総括

本市の人口は少子高齢化の影響を受けて、減少傾向にある。人口減少に伴い有収水量も減少してきており、今後水需要は減少していくものと考えられる。
平成18年3月合併後、平成21年度に統一料金を適用する料金改定を行ったが、今後、人口減少による料金収入の減少と、施設の老朽化に伴う設備改修に多額の費用がかかることが見込まれるため、更なる経費削減及び財源確保に努め、今後も健全経営を維持できるよう努める。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の実績を基に類似団体平均値を算出しています。